

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

全国各地から、春の花や味覚があつという間に通り過ぎ、春はすっかり短くかくなつたと思わせる知らせが届いている。15日には白馬も25・4度を記

録、今年初の夏日で7月中旬並みの曇りだった。本格的な曇りを迎える前に、体を曇りに慣れさせる「暑熱順化」は数日から2週間程度かかると言われている。「暑熱順化前線」情報を意識し、熱中症になる危険性を低くする取組に期待したい。

安曇野北部にも本格的な桜の便りが届く時期を迎えた。桜の語源は諸説あるが佐藤俊樹さんの著書『桜が創った日本』では、稲の精霊を表す「サ」と神が座す場所「クラ」が合わさり、雪が消えて冬が終わわり、穀物の精霊が最初に舞い降りてく

る場所を意味し、清らかさや美しさの象徴が「桜」だと記述している。桜の花言葉は「純潔」「精神の美」。凡人の当方は花見酒を飲めると思ってしまうが、俳人の桂信子さんが「梅もよし桜も

都豊島区に当たる染井村の植木職人が広めたとされる「ソメイヨシノ」は、接木や挿し木で育てられて、全国各地に植えられたものだ。ヤマガクラやエドヒガン桜は種から育った自生種だ。サクラの

荒廃する山林を「桜」で造景する取り組みも楽しみみだ

よろし死ぬもよし」と詠んだように遠い未来の情勢を見通す達観の境地になりたいものだ。とつくづく思う年齢になったと感じる。桜の代表的な品種は江戸末期から明治の初めにかけて、今の東京

府八代将軍・吉宗公の時代に堤防の効果を高めるために植栽したと言いつたに聞かれている。花の時期が短く花見に多くの人が集まれば一気に踏み固めてくれるとの発想だ。温暖化により降雨などの自然現象が激変して豪雨により土砂崩れが多発している。桜咲く山は土砂崩れが少ないと言われているので、治山維持を目的とした植栽事業を展開して新たな観光資源を造り出すことも面白いのではないだろうか。



白馬村新田伝行山の桜風景は地域が造り出した造景の手本だ

る。私たちの最大の資源は「時間」だ。流れる続ける時間であっても時間に区切れを表す「時を刻む」気持ちを持ちは

村森上